

令和5年度 学校経営計画の策定

学校教育目標

- よく考え 表現する子
- ◎豊かな心をもつ子
- たくましく鍛える子
- 互いのよさを認め合う子

自ら未来を切り拓き、①未来社会を担う児童の育成を目指すために、「知・徳・体」のバランスのとれた教育活動を推進するとともに、②多様性を認め合える資質や能力を育むことをねらいとする。その中でも、③「豊かな心をもつ子」を今年度の重点目標とし、④よりよい人間関係の確立に努める。

＜目指す子ども像＞ 未来社会を担う子
～自他を大切に、共によりよく生きようとする児童～

＜目指す学校像（教師像含）＞
地域の風行き交う学校～わたしたちの令和小～

＜教育目標のとらえ＞

①未来社会を担う児童の育成

→子どもをとりまく様々な存在（地域、保護者、関係諸機関、近所の人等）と連携・協働して子どもの育ちを支える。

②多様性を認め合える資質や能力を育む

→個々の思いや願いを大事にする周囲の大人、わたしたちの人権感覚が子どもの人権感覚を育むであろうことを意識する。（いじめ予防、不登校対策、自殺予防等）

→「長所・短所」、「得手・不得手」、「得意・苦手」、「好き・嫌い」全て含めて、その子の存在自体が「よさ」と考える。

③豊かな心をもつ子を今年度の重点目標

→その子の抱えている見えにくいバックボーンまで含めてその子の心持ちを押し量り、その子の内面の育ちを重視する。

④よりよい人間関係の確立

→様々な教育活動での「ねらい」（第1）（例えば、教科のねらい）を明確にし、その上で人とかわり合う場面での「ねらい」（第2）（例えば、内面の育ち・折り合い）等を常に意識しながら指導・支援に当たる。

<教育目標達成のための基本方針>

(1) 学年学級専科経営の充実

居がい、やりがいのある集団を目指して、学年体制を活用し、教師自ら率先垂範の姿勢を大切にする。朝教室や玄関で迎え、あいさつをかわすことから始め、きめ細やかな指導を実践する。地域、保護者への丁寧な説明を大切に協力を仰ぐ。

<よりよい学級づくり 学年・専科経営>の重視

①子どもたちにとって、日本の初等教育の学級経営に勝るもの、未だ無し
(言い過ぎかもしれないが…)

②わたしたち教職員の存在が子どもに与える効果の大きさを常に意識
(子どもにとって最大の教育環境はその子の目の前の教師)

<具体的な言葉で言うと…(例)>

学校生活の中で

→学校は「やりたくても やってはいけないことは やらないところ」→我慢
学校は「やりたくなくても やらなければならないことは やるところ」→努力

学校内外の様々なトラブルと大人のスタンス(教師も保護者も)

→「子どもを信じる」から「子どもはよりよくなろうとする存在であることを信じる」へ

(2) よりよい授業づくり

授業改善に努め、年次研修、小教研等の機会を生かす。そのために教室を開き、教職員同士で切磋琢磨する。

(3) 人権教育・道徳教育と道徳授業の充実

教師としての人権意識を高める中、豊かにかかわり合う(自他を大切にする)全教育活動と道徳科授業との関連を意識しながら道徳授業を確実に実施、質的な向上を図る。

(4) 生活指導の充実

その子の背景(バックボーン)まで意識した、児童理解に努め、プラスに働く指導を実践する。特別支援教育と教育相談機能の強化を図る。

(5) 相手意識のある特別活動

互いのかかわりを豊かに(自他を大切に)する体制づくりを行い、意見交流を通して、自分の行動やかかわりが他者のためになっていることを感じられるようにする。

(6) 交流と連携の推進充実

互いのメリットを大切に、こだま学級と通常の学級の交流、保幼小中連携教育及び地域学習の充実に努め、生活、総合を中心に指導計画を工夫改善する。

(7) 数値目標と検証

PDCAサイクルに基づき、教育活動の常なる工夫改善を目指す。

(8) 危機管理意識を高める

予防の共通実践と対応システムを確立する。各対応研修と工夫改善を行う。きめ細やかな配慮のもと、対応を迅速、的確、誠実に行う。

(9) 学校を内にも外にも開く

授業公開やHP、ボランティアの活用等を通して、授業を中心に日常の見えにくい部分を見せる。

(10) 協働参画意識を高める

報告、連絡、相談はもとより、共通理解と共通実践を通して、情報共有を密に、自らの協働意識を高める。

(11) 教育課題への対応

学校レガシー、カリキュラムマネジメント、GIGAスクール構想等への対応を具体的に進め、教育課程編成に生かす。

(12) 教育公務員としての責任と自覚

全体の奉仕者として、期待されていると同時に見られている仕事であることを意識して職務に当たる。服務事故防止に努める。

(13) ライフワークバランスの重視

事務室を組織的に運営し、事務室と連動した校務改善を推進する。保護者・地域に対して教職員の働き方改革の推進を意識付ける。

＜具体的な方策と取組指標・成果指標について＞

1＜（知）確かな学力＞自他を大切に、進んで自らの考えを深めようとする児童

（１）授業と家庭学習、放課後学習等連動した学習支援が進んでいる。

＜方策１＞指導計画の見直しとカリキュラムマネジメントの継続実施

＜取組指標＞ ①：かかわり合う学習活動の工夫
②：授業と家庭学習両面でのICT活用（AIドリル）による連動
③：放課後学習の活用
3項目充実→A 2項目→B 1項目→C（以下同様）

＜成果指標＞ 学校生活アンケート クラスの人と学び合って学習していますか？

（２）令和小スタイルの共通実践、授業の充実を核に学び合う児童が増加する。

＜方策２＞視点をもった観察授業、授業研究での話題と関連付け

＜取組指標＞ ①：視点をもった授業観察での授業
②：外部講師招聘・公開授業計26回
③：令和小スタイルの意識＜聴く・話す＞

＜成果指標＞ 学校生活アンケート 学習は楽しいですか？

2＜徳（豊かな人間性）＞自他を大切に、自分で自分を育てようとする

（１）生活指導、特別活動全体の工夫改善、特別支援教育、教育相談機能の充実等でいじめ、不登校他への対応が進んでいる。「中野区児童の権利に関する条例」の理解実践が進んでいる。

＜方策１＞生活、特活共通実践、ケア会議の組織化、いじめ防止等アンケートの有効活用

＜取組指標＞ ①：いじめ防止研修継続実施と認知案件の継続的定期的な聞き取り
②：ケア会議の実施率・学校生活支援シートと個人面談
③：安全教育としての情報モラル教育の継続

＜成果指標＞ いじめ案件の解決スピード

（２）道徳授業を核に道徳教育を関連付けた心の教育が推進されている。

＜方策２＞道徳授業の量確保と質向上、道徳教育のカリキュラムマネジメント

＜取組指標＞ ①：道徳授業の基本的なスタイルのマスターから質的向上へ
②：道徳教育、道徳授業の関連付けと指導計画工夫改善
③：よりよい学級づくりの常なる意識

＜成果指標＞ 学校生活アンケート 学校の楽しさ 自他を大切に

3<体（健康・体力）>自他を大切に自ら体力の向上、健康づくりに取り組む

(1) 授業の充実を核に、体力向上の取り組みが関連付けられている。

<方策1> 体育の授業改善と各活動、遊びの関連付け、新校舎の有効活用、令和体操の実践

<取組指標> ①：運動量確保、教材を有効活用する体育学習、令和体操継続実施
②：安心な学習集団、過程を大切にした授業の意識
③：授業と遊びの関連付け

<成果指標> 学校生活アンケート 運動の楽しさ

(2) 健康教育としての保健指導、食育指導が推進されている。

<方策2> 保健指導、食育等の共通実践と工夫改善

<取組指標> ①：保健指導の指導計画の工夫改善
②：食育の指導計画の工夫改善
③：食育、保健指導を生かした学級での指導

<成果指標> 学校生活アンケート 自分で健康づくりに努める

4<働き方>当事者意識をもって職務の効率化を進める

(1) 保護者、地域の学校理解、校務改善とワークライフバランスの意識が進んでいる。

<方策1> 職員室、事務室、管理室連携した確実な庶務・事務、学習人材管理、支援者活用、学校地域連携、広報等

<取組指標> ①：庶務・教務・事務の組織化とスリム化
②：保護者アンケート、感想の活用、回収率
③：人材管理・学校開放、広報の組織化とスリム化

<成果指標> 教職員の在校時間の意識

5<連携1（保幼小中）>令和小としての保幼小中連携推進

(1) テーマをもった五中校区の保幼小連携教育を令和小の特色として推進している。

<方策> 五中校区小中連携教育の維持継続、令和小関係保幼稚園との連携推進・情報交換

<取組指標> ①：関係保幼稚園との情報交換会の連続性
②：五中校区の小中連携教育の取組の維持継続→テーマ設定
③：保幼年長児の学校訪問、学校施設活用

<成果指標> 校区保幼稚園からの肯定的評価

6<連携2（地域、保護者連携）>地域に根ざした 開かれた学校づくりと連携教育の推進

（1）令和小学区域の地域を生かした学習展開や地域の教育力の活用を維持継続する。地域、保護者のかかわりの意識が参観から、参加、そして参画への移行が進む。

<方策>「学校や地域のことを考える学習」の工夫改善、防災会等を生かした地域町会の理解、サポーター、ボランティア等の組織化や学校支援組織の編成

<取組指標>①「学校や地域のことを考える学習」を大いに意識
②サポーター、ボランティアの導入活用
③交流学級を設定したこだま学級との交流

<成果指標>学校生活アンケート 地域学習の楽しさ

「学校や地域のことを考える学習」を大いに意識～報償費も活用
→大上段でなく、維持継続、日常化を！！

「学校や地域のことを考える学習」

- ①地域や学校についての学習
(近接学年交流、異学年交流、たてわり…あるいは留守の活用も)
- ②地域に出かけて、地域にふれる学習
- ③地域の施設や企業での学習
- ④地域の方や専門家等の外部人材(財)をゲストとした学習
- ⑤地域の学校や幼稚園、保育園、関係諸機関等と連携した学習
- ⑥地域や保護者の方が共に参加する学習
(感想を求める、展示や発表にも感想やコメントを…) 等

EX. こだま：交流・歩行学習 1年：民生委員さんへのお礼 2年：学校たんけん、
3年：旧校舎での4方位 4年：友禅、5年：ぎょしょく 6年：全校朝会 等

I 組織的な広報活動の推進と情報提供
地域情報の入手と共有化

II 昨年度の地域連携実績の維持継続

III 地域、保護者の学校支援組織編成

<地域人材、GT等活用連絡先他一覧>

共有→R05_教務
→R05_地域連携・連携教育
→令和人図鑑(学校支援・関係者)